

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 10 章 38～42 節 >
1 前の個所と合わせて読むと見えて来ることがある。それは何か。

今日の個所はこの個所の直前、善いサマリア人の話の内容を考えると、面白い関係が浮かび上がってきます。祭司やレビ人は神に向かうことを重んじたがそれは良しとはされなかったとすると、マリアはひたすらイエス様（神）に向かうことを重んじ良しとされた。一方、襲われた旅人を介抱する愛の行動に出たサマリア人が良しとされたとすると、イエス様を迎えるにあたりできる限りもてなす行動（「もてなし」(40)の原語はディアコニア：仕える、奉仕する、すなわち、愛の行動の意）に出たマルタは良しとされなかった。二つの話が一見逆を向いているように思える面白い関係です。ここから見えて来ることは何でしょうか？

2 神様を重んじる、隣人への愛の行為を重んじる、その二者択一か？

善いサマリア人の話から、困っている人への愛の行動をとらないで神様を重んじているだけではだめであることを教えられました。しかし、気をつけなければならないのは、「神様を信じること」を「愛の行動を取ることに置き換えてしまってはならないということです。マルタがイエス様を責めた言葉、「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」(40)はその問題性をよく表しています。自分がしていることを立てて主を責め出したらおしまいです。

もう一つ気をつけなければならないことがあります。主が、「必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ」(41)とされているのだから、何をするよりもただイエス様の言葉を聞くことが大事なのだと考えるのもおかしいということです。ではどうしたらいいのでしょうか？

3 聖書の神様を思い、局面毎に柔軟に対処し、進んで行ける恵み！

信仰を持つとは、神に向かうことと愛の行動をなすことのどちらが正しいのか、その答えを得ることはありません。自分自身や他の人が迎える局面毎に、私たちの罪を赦して下さった愛と赦しの神様を覚える所に立ち直して、その都度神様が一番喜ばれると思う道を取って行くこと、取って行けばいいのだと思える者になるということです。まだ迷う時はもう少し考えて主に聞いたらいい。どうしても進まなくてはならず決めて進んで間違っていたと気づいたら、そこで神様が喜ばれると思う方向に進み変えたらいい。それに伴い歩んで下さる神様なのでありますから。